

## 令和3年度学校経営計画に対する自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
1 ICTを効果的に活用した指導方法の工夫・改善により、生徒の主体的で協働的な学びを支援し、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成を図るとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。(学びのスタンダード)	① 県工学びのスタンダードと「R80」を活用し、かつ学校研究の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	昨年度は「R80」の取り組みが一部の教科で定着しつつあり、効果も上がっている。また、工業各科ではレポートの提出が常であるため、生徒が自分の行っていることを「論理的思考や記述」と認識していない部分も見られる。「R80」の取り組みをさらに進めてしていくことが大切である。	【満足度指標】 思考力、表現力が身についたと生徒自身が実感できることが、授業に対する満足度につながる。	「県工 Thinking time」や「R80」などを通して、根拠をもとに論理的に発言したり、記述したりすることができるようになったと回答する生徒の割合で判断する。 <b>[改定]</b> A 75%以上 B 65%～75%未満 C 55%～65%未満 D 55%未満	C以下の場合、教務委員会、各教科等を中心に、目標提示および評価方法などを再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
	② 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善に取り組むことで、学習の定着を実現する。	教務課 各教科	家庭学習時間の減少や学習意欲の減退等の課題に対応する必要性が指摘されている。授業の中で学習に対する意識付けや家庭学習につながる課題の出し方などを検討し、改善することが求められる。	【満足度指標】 予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に授業以外で主体的に取り組んだと実感できる。	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に授業以外で主体的に取り組んだと実感できる。 <b>[改定]</b> A 85%以上 B 75%～85%未満 C 65%～75%未満 D 65%未満	C以下の場合、教務委員会、各教科等を中心に、意識付けの方法や課題の出し方を再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
	③ 授業の情報化推進の一環として、ICT機器の活用を促進し、学力の定着が実感できる授業を目指す。	学習情報課	ほぼ全クラスでプロジェクターを使用する環境が整い、ICT機器の活用が進められているが、授業においてICT機器をより効果的に活用する力の向上を図る必要がある。	【努力指標】 ICTを活用した公開授業等を実施し、研究協議会等での成果を授業改善に活かす。	ICT機器の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 <b>[継続]</b> A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	C以下の場合、学習情報課を中心に、ICT機器利用に係る研修のあり方を見直す。	生徒を対象に授業評価アンケートを実施する。 (7月、12月)
2 規範意識やマナーの向上を通して、将来の職業人として高い意識を持った生徒を育成する。(人間力スタンダード)	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的な生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	確かに生徒は挨拶を行っているが、それは先に教師が挨拶をしているからであって、決して生徒が積極的に挨拶を行っているのではない。卒業後に実社会へ出ていく本校生徒にとっての基本的な生活習慣である挨拶や時間の励行等については常に指導しているところである。 将来の社会人としての基本的な生活習慣の確立を目指し遅刻防止指導は引き続き取り組む必要がある。	【努力指標】 人間性の溢れた活力ある校風を築くことを目指し、全校生徒が元気で爽やかな挨拶の励行を促す。	日頃、生徒がしっかりと挨拶を行っているかどうかを、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 <b>[改定]</b> A 85%以上 B 65%～85%未満 C 45%～65%未満 D 45%未満	C以下の場合、生徒指導課・学年団を中心に指導の改善を図る。	教師を対象に学校評価アンケートを実施する。 (7月、12月)
			【成果指標】 時間を守り、規律ある生活を送り、遅刻者が減少する。 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	遅刻者数(実人数)減少の割合で判断する。 <b>[継続]</b> A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	C以下の場合、生徒指導課・学年団を中心に指導の改善を図る。	生徒指導課の集計人数で判断する。 (12月)	
	② 周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工ものづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	昨年度は、コロナウィルス感染拡大防止のため、全日程を中止した。本校に対する周辺地域に対する理解や協力が必要であり、今後ともボランティア活動等の地域貢献活動を通じた一層の連携強化が求められる。	【努力指標】 ボランティア活動等、地域貢献活動に積極的に参加する意識を育てる。	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうかで判断する。 <b>[継続]</b> A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	C以下の場合、活動の意義等についての啓発を図る。	参加生徒を対象に活動後にアンケート調査を実施する。 (随時)
	③ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	全教職員が問題の未然防止に対する共通理解をさらに高め、きめ細やかな指導、組織的対応を行い、未然防止に努める必要がある。	【努力指標】 生徒に寄り添い、担任や関係職員と情報交換を図り、未然防止・早期発見に取り組んでいる。	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができていると思うかについて、教師対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。 <b>[継続]</b> A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	C以下の場合、指導方法を再検討し、全校的な意識の変革を図る。	教師を対象に学校評価アンケートを実施する。 (7月、12月)
④ 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	昨年度の違反指導件数は、前年よりは減少した。一方、自転車の交通事故は微増である。更なる違反指導件数の減少による交通事故防止に向けた全校的取り組みが求められる。	【成果指標】 石川県警察が発表する月別の違反指導件数の減少を目指す。	違反指導件数(累計)減少の割合で判断する。 <b>[継続]</b> A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	Dの場合は、生徒指導課を中心に、指導方法を再検討し、全校的な意識の変革を図る。	県警発表の件数で判断する。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考		
3	専門的技術の習得をはじめ、資格取得や検定、コンテストに意欲的に取り組み、確かな進路実現を図る。(技能スタンダード)	①	就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	昨今の就職希望者増に対応し、各学科に応じた求人数を確保し、企業が求める人材と生徒の資質や特性との一層のずれのないマッチングが求められている。	【成果指標】 就職希望者の1社目受験での内定率をみる。	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。[継続] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	C以下の場合は、内容を分析し、次年度の進路指導に反映させる。	年度末に集約し、判断する。
		②	生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。	工業7学科 教務課	資格取得は専門高校における職業教育の中核となるものである。県工資格検定スタンダードを柱に据え、学科ごとに、より一層資格取得に取り組む必要がある。	【成果指標】 ジュニアマイスター認定者数の状況をみる。	認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。[継続] A 70名以上 B 60名～70名未満 C 50名～60名未満 D 50名未満	Dの場合は、工業各学科で指導方法や指導内容を再検討する。	年度末に集約し、判断する。
		③	全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7学科	昨年度は、ものづくりコンテスト、ロボット競技大会等の各種の大会がすべて中止となった。今年度の大会出場に向け、早期に準備を図っていききたい。それぞれの学科に係る様々な全国大会やコンテスト、各種コンクールがあり、本校から積極的に参加している。大会成績およびコンテスト等の結果は、各学科専門教育のレベルを測る指標の一つと捉える。昨年度は、全国大会およびコンクールにおける全国入賞、ものづくり大会優勝などの取り組みの成果があった。今後も継続して県大会はもとより、全国で活躍する取り組みが求められる。	【成果指標】 予選の有無やコンテスト等の特色により基準が異なることから、状況による判断基準を設定する。	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合 は、大会出場の難易度で判断する。[継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した ----- [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合 は、出場した全国大会の成績で判断する。[継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した ----- 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。[継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	Dの場合は、工業各学科で指導や取り組みの見直しを行う。	年度末に集約し、判断する。
4	学校行事や部活動等を通して、粘り強くたくましい体力と精神力及び周囲と協働する意識や社会性を培う。	①	活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	部登録はしているものの、実際に活動の乏しい部員が存在するのが現状である。各々の部活動の内容の充実を図ることが求められる。	【努力指標】 部員が意欲的に部活動に取り組むことができるよう、部活動の内容の充実を図る。	部・同好会活動に意欲的に取り組んでいるかどうかを生徒対象の学校評価アンケートの肯定的評価の割合で判断する。[継続] A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	Dの場合は、部活動の内容充実に向けた方策を検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月 ただし、12月は3年生を除く)
			昨年度は県総体、北信越総体、全国総体が中止となり評価なし。一方、県新人大会では多くの部が上位入賞しており、今年度はB評価以上を目指す。	【成果指標】 運動部・文化部のそれぞれが、県代表となることを目標に、活動のレベルアップを図る。	県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて)[継続] A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	Dの場合は、部活動活性化に向けた方策を検討する。	年度末に集計し、判断する。		
		②	学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	昨年度は、行事の中止や多くの制限がある中での実施であったが、96%の保護者の方が満足していると回答し高評価であった。様々な条件下での行事の実施になるが、生徒が積極的に取り組めるようにしていきたい。	【満足度指標】 保護者の目から見た生徒の学校行事に対する満足度をみる。	保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答する割合で判断する。[継続] A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満	C以下の場合は、次年度の行事について内容を検討する。	保護者を対象にアンケート調査を実施する。 (12月)
③	歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	昨年度の歯科治療受診完了率はコロナの影響もあり、8%を割る大幅な減少結果となった。今年度は、保健室を中心に、個別指導、ホーム担任や部活動顧問との連携により、歯科保健指導の強化を図る。	【努力指標】 保健だよりなど情報提供により、歯科受診率の推移をみる。	歯科受診済の生徒の割合で判断する。[継続] A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満	Dの場合は、学年団や部顧問と協力し、指導の取り組みの見直しを図る。	学期ごと受診結果報告書を集計し、判断する。 (7月、12月)		

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考		
5	教職員が相互に業務を点検・改善し、教育の質を落とすことなく組織的で効率的な業務のあり方を探る。	①	校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。	各科・学年・各課	昨年度は定時退校日を行うことができなかった教員の割合が一斉日46%、個別日27%であった。今年度は、業務改善を着実に進め、定時退校日の達成度を高める。	【努力指標】 定時退校日の達成度の向上を図る。	定時退校日を半分以上守れている教員の割合で判断する。 [継続] A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	Dの場合は、改善策を検討する。	教師を対象にアンケートを実施する。 (7月、12月)
6	「新しい生活様式」を踏まえ、新型コロナウイルスへの感染リスクをできるだけ減らしつつ、生徒の健やかな学びを保障するとともに、生徒の心のケア、人権への配慮等、新型コロナウイルス感染症と共生していく学校運営に努める。	①	感染防止のための「新しい生活様式」の啓発活動と具体的取り組みを保健課が主体となり全職員共通理解の下で生徒を指導する。	保健課 全職員	全生徒はマスクを着用し感染防止に努めているが、昼食時の会話や休み時間における身体的距離の確保でやや不十分な場面が見受けられる。	【努力指標】 生徒自ら感染防止策に努めている。	「新しい生活様式」を踏まえて感染防止策に主体的に取り組んでいる生徒の割合で判断する。 [新規] A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満	場合は、改善策を検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月ただし、12月は3年生を除く)